高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とは
ムササビの古い呼び名です。

vol.67 季刊
2022年春号

高尾山の森に暮らすカタツムリ

みなさんは、カタツムリにもさまざまな種類がいることをご存じでしょうか？
高尾山には、森林を好む 25 種のカタツムリたちが暮らしています。（八王子市史自然編より）
春になると、カタツムリたちは冬眠から覚め、特に湿気の多い日には見つけやすくなります。
本号では山内で見つけやすいカタツムリから、彼らの暮らしを支える高尾山との関係に迫ります。

高尾山でよく見るカタツムリ

ミスジマイマイ

- 山内目撃数 NO.1
- カラの模様が 3 本筋のものもいる
- 木の上が大好き！

樹木の葉や枝、幹

手すりなどの人工物

▲林縁や林内にできた明るい場所がねらい目

カラのもよう いろいろ

高尾山のミスジマイマイは模様が多彩！
濃褐色や、黄白色の火炎彩が綺麗な
トラマイマイ型のタイプもいます。
同じ種類とは思えない多様さです♪

どんな模様の子に会えるかな？

ニッポンマイマイ

- よくのびる体はおもちのよう！
- おにぎり型のカラが特徴
- 木よりも草の上にいることが多い

足元の草の上

▲草から草へ移動する姿が見られるかも…!?

ヒダリマキマイマイ

- この中では唯一カラが左巻き
- 高尾山で見られるものは赤茶色が多い
- 地面の近くでよく見られる

地面や落ち葉の上

▲湿気多めの場所を好みます

左巻きってどっち？

▲カラの口が左、うずの向きが中心から反時計回りだと左巻き

Twitterでふりかえる 高尾山ニュース！

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
2022年1月～3月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

高尾ビジターセンター【公式】
@takaovc

天気：晴れ　気温：1.0℃　富士山展望：×
山頂付近では、20cmほどの積雪があります。つい美しい雪景色に見とれてしまいますが、滑りやすく危険な場所も多くあります。足元に気を付けて雪の高尾山をお楽しみ下さい！
#軽アイゼンおすすめ　#MtTakao　#積雪注意
#高尾ビジターセンター

9:47 AM · Feb 11, 2022 · Twitter Web App
100 Retweets　8 Quote Tweets　524 Likes

関東地方で大雪が降った2月10日。翌日の高尾山山頂には銀世界が広がっていました。冬景色に一気に衣替えした高尾山はいつもと違った美しさがありました♪

FUN FUN たかおさん

「もしもカタツムリが配達員だったら…」の巻

作・絵：おざき

「のぶすま」最新号とバックナンバーを、高尾山山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

解説員コラム vol.29

山頂でお待ちしています

今回は高尾ビジターセンターで働く私たちスタッフのことを紹介させてください。このコラムをお読みいただいている方の中には、高尾山や高尾ビジターセンターにいらっしゃったことがある方が少なくないと思います。そんな皆さんにトイレをよく利用いただいているのではないでしょうか？山頂周辺のトイレは5人の清掃スタッフが管理をしています。皆さんができるだけ気持ちよくご利用いただくため、ビジターセンターの横と山頂直下にある2階建てトイレの清掃や故障個所の修繕、山頂周辺の清掃に日夜励んでいます。もしかしたらトイレ近くや山頂で青い制服を着たスタッフとすれ違った方もいるかもしれませんね。

そしてこのニュースレターを発行しているのが解説員です。10名のスタッフがカウンターでのご案内やガイドウォークなどのイベント、館内の展示制作などを役割分担をして行っています。私たちは肩書をインタープリター（インタープリテーション＝通訳をする人という意味）と名乗ることがあります。インタープリテーションとは、ただ生きものの名前などの情報を伝えるのではなく、感情や思考を刺激して皆さんと高尾山がつながるお手伝いをするコミュニケーションの方法です。

春夏秋冬問わず、私たちスタッフはいつも高尾山頂にいます。いつの季節も皆さんが高尾山を気持ちよく利用して、少しでも楽しい体験をすることができたらこれほど嬉しいことはありません。高尾山でお会いした際にはお気軽にお声がけください。

〈解説員　むらかみ〉

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2022年春号vol.67
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成　2022年4月1日発行
所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町2176　電話：042-664-7872　FAX：042-662-9926
（公式ホームページでバックナンバーが閲覧できます https://www.ces-net.jp/takaovc/）

ちょっと変わった カタツムリ

ナミギセル

・１匹見つけると、
周りに何匹も隠れている
・煙管（きせる）のような形のカラが
名前の由来になっている
・倒木の下が大好き！

オオケマイマイ

・見た目のびっくり度 NO.１
・カラのふちに生えた毛が特徴
・カラに生えた毛は、一度抜けると生えてこない
・沢沿いや岩のすき間に多い

倒木の下

▲倒木の下では他のキセルガイの仲間にも出会えるかも？
彼らの生活を守るために、観察後は元の位置へ戻すのを忘れずに！

6号路の沢沿い

▲湿気の多い場所に注目してみると出会えるかも？

実は街から減っているカタツムリ

開発が進むといなくなってしまう…！？

一度に移動する距離が短く、移動するスピードもゆっくりなカタツムリ。宅地の開発などで大きく環境が変わってしまうと、違う環境へ移動もできず、その場所で暮らせなくなくなってしまいます。
特に近年、都心方面では開発が進み、森林を好むカタツムリが減少傾向にあります。自然度の高さを測る環境指標生物として用いられているミスジマイマイとヒダリマキマイマイも、開発によるまとまった森林の減少で、両種とも都市部では非常に少なくなってきているのです。

▲カタツムリは乾燥に弱く、木が伐採されて乾燥が進むと棲めなくなってしまいます

▲薬王院を中心に山岳信仰の場とされ、歴代の領主により守られてきました

森林の豊かさを示すカタツムリ

カタツムリは湿気の多い環境を好むので、まとまった森林があると生息しやすくなります。そのためカタツムリの多い森林は「豊かな森林」といえます。高尾山は、奈良時代から山岳信仰の場とされ、薬王院を中心に社寺林として守られてきました。さらに、現在も国定公園として森林の保護を行っているため、カシ類を中心とした常緑広葉樹林やイヌブナなどの落葉広葉樹林といった、貴重な天然林が今なお残されています。この森林こそが、カタツムリたちの棲みやすい環境を保っているのです！

おわりに

街に比べて高尾山の方がよく見るなあと感じていたカタツムリ。みょーんと体をのばして歩く姿が可愛らしいですよね。のんびり歩いていることが多いですが、時には雨に打たれてちぢこまっていることも！カタツムリは雨上がりの日だけではなく、晴れの日にも色々な場所に隠れています。
高尾山でのびのび暮らすカタツムリをぜひ探してみてください！　〈解説員　かわまた〉

↓雨のしずくにちぢこまるカタツムリ

高尾山の
れきし
vol.29

高尾山と富士山

高尾山頂から望める富士山。実は高尾山と歴史的に深いつながりがあります。今回は江戸時代前から続く高尾山と富士山の関係をご紹介します。

高尾山は１９００年代初頭の多摩陵の造園と同じ時期に、高尾山ケーブルカーが開通したことをきっかけで観光地として発展が進んできました。交通アクセスの良さや、気軽に登山を楽しめることから２００７年にミシュランガイドで富士山と並んでミシュラン三ツ星に選ばれ、現在も観光地として老若男女問わず多くの人々が訪れる山です。実はこの人気が江戸時代から始まっていたことはご存じでしょうか？高尾山が現在も人々を魅了している背景には高尾山山頂から望める「富士山」との繋がりが強く関係しています。

日本人の心を惹きつける富士山は、古くからその美しさで人々を魅了する一方で、噴火によって災害をもたらすことから畏れ崇める対象となり、山そのものが神とされてきました。幾度も起こる富士山の噴火の鎮火を願うために麓に「浅間神社」が建立され、人々は富士山を遠くから拝む「遙拝（ろうはい）」という形で拝み始めました。これが高尾山を後に観光地として発展させた重要な要素でもある「富士山信仰」の始まりと考えられています。平安時代末期に噴火活動が鎮静化すると、富士山は日本古来の山岳信仰と密教等が集合した修験道の道場となり修行を目的とした修験者たちが「登拝（とはい）」する山と変わり、富士山信仰は形態を変え時代と共に人々の生活に浸透していきました。

時が経つに連れて富士山へ続く登山道が確立されていき、信仰登山が各地に広まってきていた中、戦国時代に甲州（現山梨県）と武州（現東京都・埼玉県・神奈川県）が対立しました。このことから甲州を通行しての富士山への参拝が厳しくなり、富士山へ続く道を塞がれてしまった人々が増えてしまったのです。この事実を受け、当時武州を治めていた北条氏康が富士山の浅間神社を高尾山中腹にある薬王院に勧請しました。これを機に富士山信仰と高尾山の繋がりが出来上がり、高尾山はその崇敬をもつ人々が多く集まる聖地として重要な役割を果たすようになりました。江戸時代の高尾山は、庶民の間で爆発的に流行した信仰と娯楽を組み合わせた旅をする人々「富士講」でさらに賑わいました。江戸町⬇高尾山⬇小仏峠⬇富士山までのルート（富士道と呼ばれていた）が特に人気だったようで、約1週間信仰登山を行っていたといわれています。富士講の玄関口として高尾山は多くの人々が訪れ、戦前まで続いたと言われています。このように富士山信仰との繋がりが多くの人々を高尾山に呼び、高尾山を観光地として大きく発展させました。

奥高尾方面にある富士見台には扉を開けると富士山を絵のように拝める1つのお堂があったことや、小仏峠には昔から小仏茶屋（旧身茶屋）があるなど面影はまだ残っています。昔の人々を虜にさせた富士山信仰の歴史を辿りながら高尾山を歩くと、一味違う登山が楽しめるかもしれませんね。

〈解説員　うすい〉

参考文献
世界遺産年報２０１４／朝日新聞社出版（２０１３）
近代期における富士山信仰とツーリズム／松井・卯田（２０１５）

解説員の
いちおし
vol.25

『アサギマダラのさなぎ』

眠れる森の宝石

25mmほど

アサギマダラは幼虫の姿で冬を越します。4月には大きくなった幼虫がキジョランの葉の裏で蛹になります。幼虫も成虫も鮮やかで華のある姿をしていますが、美しさでは蛹も負けていません。艶やかな黄緑色の体には無機的な銀の斑点が散りばめられており、その体色が森の中ではうまく溶け込んでいます。この眠れる宝石が蝶に変身できるように優しく見守りましょう。

見られる時期：4～5月、9月
見られる場所：1、3、5、6号路、稲荷山コース

〈解説員　こばやし〉